

神葬祭の諸儀

◆帰幽奉告

神葬祭は、氏神さまに故人が亡くなった旨を奉告することから始まります。



家庭では神棚と祖霊に奉告し、神棚の前面に白い紙（半紙）を貼ります。これは、葬儀の間、遺族が故人のおまつりに専念するためです。

また、故人のために特別に祈願をした神社があれば遙拝するなどして、その祈願を解きます。

葬儀の前に

近親者の手で、湯灌（体を洗い清める儀式）をして遺体を整え新衣を着せ、男性は髭を剃り、女性には薄化粧を施して遺体を安置する殯室に移します。

殯室では遺体を北枕にし、白布で顔を覆い、枕もとに屏風を立て、守り刀を置きます。

◆通夜祭・遷霊祭



家族や生前親しかった者が集まり、夜通し故人を偲びます。

本来、通夜は故人の蘇りを祈るもの

でした。通常私たちが食している物（常饌）や生前の好物をお供えするのも、こうした意味からです。

古くは、霊と肉体が分離した状態が死であり、もし霊が遺体に戻れば故人は生き返ると考えられていました。かつて、酒宴などを設ける地方があったのも、故人とともに食事をとることで、霊を遺体に戻そうとしたからです。

この後、故人の御霊を仏式の位牌にあたる霊璽に遷し、しばらくの間仮御霊舎に安置します。

◆葬場祭（告別式）

故人の御霊を霊璽に遷した後、最後の別れをするおまつりです。

故人のために装飾された祭壇にお供え物を上げ、斎主による祭詞の奏上と祭員による誂歌が捧げられます。

祭詞には、故人の経歴、功績、人柄をたたえ、今後は祖霊となつて遺族を見守つてくださるようとの祈りが込められます。また、誂歌には故人を追



葬場祭（東京）

〔神葬祭会典大事典〕（雄山閣出版より）

末期の水

医師により臨終が宣言されると、故人の顔をそつとなで下ろして目を閉じさせ、最後の水をふくませあげます。

水は生命を保つ上で最も大切なものであることから、今一度目をあけてほしいという願いを込めて、故人と縁の深い者から順に行います。



枕直しの儀

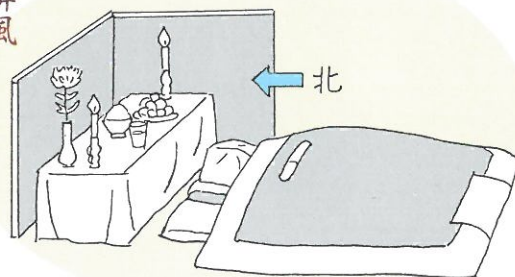
北枕

遺体を北枕にするのは、まだ御霊が宿っている遺体を貰いものとして、遺族より上位の座位（視線が南を向くように）に安置するからです。

屏風

遺体の傍らに立てられる屏風には、殯室の威儀を整える意味と、一定期間故人の御霊を守護する意味があります。

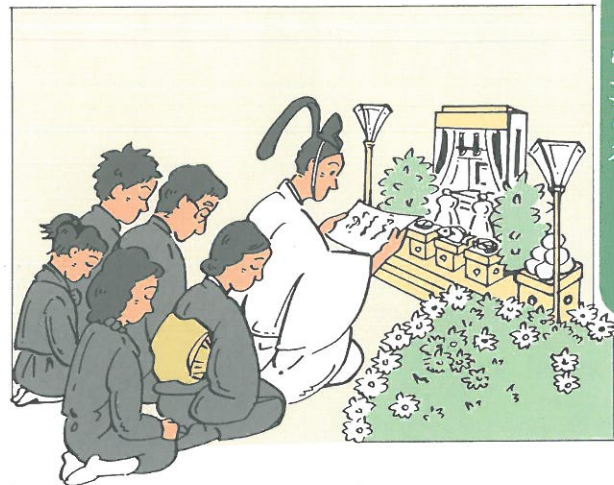
また地方によっては、この屏風を逆さに立てるところもあります。



守り刀

枕下、または胸元に置く刀には、魔よけの意味に加えて、医療用具でもある刃物の力で遺体が傷むのを防ぐ意味があります。

◆霊前祭

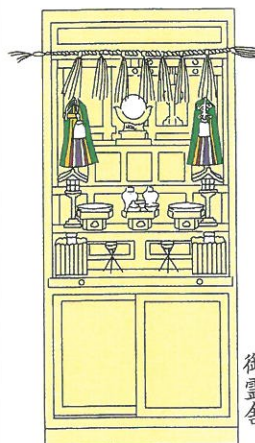


葬場祭の次の日から行い、故人の御霊を慰め鎮めるおまつりです。
家族の手によって、仮御霊舎にお供え物をし、拝礼を毎日欠かさず行います。
なかでも、葬儀がすべて滞りなく終了したことを奉告する翌日祭、十日ごとの十日祭、二十日祭、三十日祭、四

十日祭、五十日祭は、神職を呼び祭詞を奉仕していただき、丁寧に行います。そして、一般的には五十日祭をもって忌明け(葬儀に関わる諸儀の終了)とされ、神職に清祓をしていただき、それまで遠慮してきた神棚のおまつりを再開します。

◆合祀祭

五十日祭(地方によっては百日祭または一年祭)が終わった後、故人の御霊を祖先の霊と同様におまつりするために仮御霊舎から御霊舎に遷すおまつりです。
故人の霊を御霊舎という白木造りの箱に納め、御霊舎に遷してからは、毎日のおまつりや年祭の他、年中行事、人生儀礼の折などに家の祖霊としておまつりします。



御霊舎

◆命日・年祭



年祭には毎年の命日(帰幽当日)に行われる正辰祭と、三年、五年、十年、二十年、三十年、四十年、五十年の命日に行われる式年祭とがあり、故人の御霊を慰め、子孫の繁栄を祈ります。
御霊の中から命日にあたる祖先の霊霊を取り出し、毎日のお供え物の他に、お酒や野菜、果物をはじめ、故人の好物などもお供えします。

正辰祭は家族や近親者などを、また式年祭には故人と親しかった方なども招いて行います。

◆まつりあげ

子孫の手厚いおまつりが続けられ五十年(地方によっては三十年)がたち、故人のことを知らない世代が遺族の代表となると、それを一つの節目として、まつりあげを行い、以後は個人としてのおまつりは行わず、歴代の祖先とともにまつりします。

年祭、お正月、お盆、お彼岸は祖霊とその子孫である家族が家に集まる時です。季節の物などをお供えして祖霊をもてなし、それぞれの近況などを奉告します。



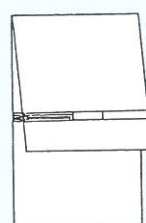
神葬祭の包み

白黒の水引を選び、表書き「玉串料」あるいは「御霊前」と書きます。市販のものには蓮の絵がついた仏式用が多いようですが、そうでないものを選びましょう。
包みの裏のたたみ方は、弔事では上の折り返しを上にして目を伏せた悲しみの状態を表します。
年祭に参列する場合の包みも、「玉串料」と書きます。

●表書



●裏の上下のたたみ方



神葬祭に参列した場合のお参りは忍手です。



神前と同様に二拝二拍手一拝でお参りすることになりありますが、神葬祭での拝礼は、亡くなられた方を偲び慎む心を表すといった意味から、音を立てずに拍手をします。これを忍手と言います。
また、忍手でお参りする期間は、地方によって違いがありますが、この頃は、五十日祭が終わるまでは忍手でお参りするところが多いようです。